

第6回 新型コロナウイルス対策支援本部会議記録

日 時：令和2年7月27日(月)

午前8時58分～午前9時51分

場 所：第 4 委 員 会 室

【本 部 長】川神議長

【副本部長】佐々木副議長

【本 部 員】三浦議員、澁谷議員、岡本議員、柳楽議員、芦谷議員

【事 務 局】古森局長、下間次長

【議 題】

1. 9月定例会議における個人一般質問について

2. 行政視察について

3. その他

【議事の経過】

[08 時 58 分 開議]

川神議長

ただ今から第6回新型コロナウイルス対策支援本部会議を開会する。
今日は、各会派で議論した内容をお示しいただき、最終的にこちらで決めて議会運営委員会へ提案したい。ご協力をお願いします。

1. 9月定例会議における個人一般質問について

川神議長

三浦議員からお願いします。

三浦議員

一般質問の時間については、今回から元に戻すという予定のとおり、持ち時間30分でやる。

川神議長

質問の持ち時間30分、答弁と合わせて1時間、最大延長15分ということ

澁谷議員

9月議会は決算審査もあって長丁場になり、執行部の拘束時間も長い。全国的に市職員のコロナ感染も見られるので、前回と違い15分は必ず確保するというので、短縮するのが良いのではないかというのが、うちの会派での話になった。

6月は1人あたりの上限時間が30分で限られていたため、執行部の答弁が長ければ質問時間がそれだけ削られたが、今回は15分の持ち時間は確保してもらいたい。

古森局長

通常なら質問30分・答弁30分にプラス15分だった。そのプラス15分の部分を、プラス10分にするとか。

澁谷議員

とにかく15分はきちんと質問時間を確保してほしい。

川神議長

今までは最長75分だったところを、今回は最長で40分と決める形というイメージか。

澁谷委員

はい。

柳楽議員

うちの会派は質問は30分で、ただ先ほどから出ている15分の延長時間をなしでやろうということで、答弁を含めて1時間を超える可能性もあるが、それは各自考えて時間を使っただけ。全体で1時間でやったらどうかという案でまとまった。

岡本議員

前回、15分では最後の詰めができなかったもので、20分にしてほしいという意見が出た。9月は決算審査等があるから時間は短縮するが、5分延長を確保してもらいたい。

川神議長

トータルの時間は。

岡本議員

40分。前回、市民から「コンパクトで良かった」という反応をいただいたので、質問20分・答弁15分。

川神議長

延長なし。

岡本議員

はい。

芦谷議員

前は異例中の異例なので、本来の形に戻す。新型コロナウイルスも心配されるが新しい生活様式で感染防止を講ずる上で、執行部の負担も考えながら本来の姿に戻す。

川神議長

元に戻す案が山水海と超党はまだ。公明は延長なしで持ち時間30分。創風会は15分、未来は20分。現状の中で少しでも時間を短縮するという話である。これらの意見を聞いた上で、更に意見はあるか。

いずれにせよ議会運営委員会に提案せねばならない。元に戻すか、前回と同じ考え方で短縮するか、2つの流れになるが。ここである程度集約したい。私はどちらかが絶対だとは当然思っていない。皆の考えは尊重したい。しかしこのコロナ禍において、3密を避ける、感染防止対策をする中、質問時間の短縮が執行部の負担軽減も含めてどの程度効果を発揮するかも定数化できるものではない。さていかがしたものか。

ただ、全国的には大都市部を中心に現在加速している。また、雲南市では市職員が感染している。もしかしたら石見部でも感染者が発生する可能性は十分考えられる。極力時間短縮ということも必要かと個人的には思う。ただ形だけではなく中身もしっかりした議会改革をしなければならないので、どこに落とし込むのが適正か。もう少しご意見をいただきたい。

岡本議員

ここでまとめるのは難しい。持ち帰ってみると違う方向の話が出た。この場ではこういう意見が出たということで持ち帰らせてもらい、議運の委員長に送りしたらどうか。

澁谷議員

考え方が違うのでまとめるのは難しい。今の感じからいくと、岡本議員が言うように、20分が折衷案というか、合意点を見つけないと、どこかで妥協せねば答えは出ないのでは。今の状況をどうとらえるかにもよる。今、東京では300人に迫る新規感染者の日もある。そういう中、議会側で活発な議論をすると同時に、執行部の拘束時間も最低限の配慮をしたほうが、議会人としてスマートかと思う。

川神議長
芦谷議員

多数決を取るのもまた違う気がする。

いろんな関係でコロナ支援がされているが、実情を見て支援しているのかは、しっかりした審査とチェックが必要だと思っている。いろんなことを考えながらやっているのだから出張したり視察を受けたりするわけではないので、予防を講じながら進めていく。

三浦議員

15分で区切るのはやりにくかったのだから、そこを配慮していただいた上で時間短縮されるなら良いのではないかと、という意見は会派でも出ていた。

柳楽議員

うちの会派でも20分という話が出た。これは私の個人的思いだが、15分でやらせてもらって見て、これまでの一般質問の時間を考えるきっかけになった。この場で話すことではないが、これを機に一般質問の時間自体を見直すべきではとも少し思った。傍聴者の意見でも、そこまで質問時間が必要なのかといった意見も見られたので、見直しが必要ではないかと感じた。

川神議長

議会運営委員会で最終的に話すことはあるのだろうが、こういう意見も出たがと提案できれば一番良いと思っている。個人的に感じているのは、決めた時間は確実に担保できるということがベースになっていると思う。全体が30分なのでということで質問時間が15分に満たないまま切るのでなく、15分なら15分確保する。答弁が長いケースも中にはあった。まずは質問時間を確保し、そこからどうするか。目安として質問20分トータル40分にするのか。まずは発言時間を確保するのが一番だろうと感じている。それが15か、20か、30かだが。仮に短縮するにしても質問時間は確保しよう。

岡本議員

山水海もどうも短縮でも良いのだろうと言っているように受け止めた。創風も、公明も。あとは超党さんの考えを聞きたい。

芦谷議員

そもそも6月に限りということだった。議会本来どういうスタイルでやるべきか。新しい対応も必要だと思うが、ここで決められるなら時間短縮についても当然持ち帰って議論するが、そもそもあるべき姿に戻すという原点に戻る話である。

川神議長

今の話も分かる。今、第2波なのか1波の残りなのか分からないが、感染がペースダウンしているというよりむしろ加速している。気持ち的には非常事態だと思っている。その中、議会の権能を確保しながら、なおかつ市民のためにどんな議論をするのかも大事である。議会の中で議論を活発化するため、一方、厳しい中でバランスを取りながら。まるきりノーマルにはできないという前提での落としどころ、ただ20分にするか答弁とで40分、プラスいくら持つのか、逆に持たずに全体の流れでやらせてもらえるのか、皆に議論していただければ、そういう形での提案もできるのだが。

三浦議員

議員の発言時間を確保できれば、一律の時間で短くするならそれは良いと思う。執行部の答弁が長引いてしまって質問時間が削られることは避けていただければ。

澁谷議員

質問は内容だと思う。台本を読みあっているだけのものを30分やろうが45分やろうが変わらない。決められた時間にベストを尽くせば良い。最後は議長がまとめていただきたい。意見は出尽くしている。議長から意見を出していただき、それを了承する形で良い。

佐々木副議長

折衷案として質問20分、トータル40分。議長判断では個人的な差別があってはいけないので、一定の時間を決めた上でやった方が良いと思う。うちの会派でも話が出たが、これを機に一般質問の時間配分もどこかで検討すべき。きっかけは議員定数のアンケートに、一般質問への意見もたくさんあったから。同じことをやっているとか。それが時間の長さからくるものもあるのではないかと。短いと逆に分かりやすく聞きやすいというメリットもある。その辺も考慮すると20分プラスアルファが妥当な線かなと感じている。

川神議長

では私から提案だが、一般質問の議員の持ち時間は20分、それは必ず担保される。執行部の答弁も20分、トータル40分とする。延長は仮に設けるなら10分。この提案についてどうか。

柳楽議員

1つ心配なのは20分担保されるとなると、短い質問がいっぱい出てきた場合、答弁はそれなりの長さになると思うが。

川神議長

そこは議長判断になる。執行部もコンパクトな答弁を考えてもらうべきだが、質問についても議員の資質として捉えてもらいたい。

澁谷議員

市長に聞く質問を、窓口レベルの質問にするのはある程度認められてきた。

川神議長

打ち切りは議長の判断がいくらか働く。そのあたりは議長采配をさせていただきたい。制度設計としては20、20、10の枠の中で全力で質問してもらいたい。そこから先は議長の采配でお願いしたい。そういう提案をしたいと思うが、いかがか。

(「異議なし」という声あり)

では議会運営委員会の時にそのように提案させていただきたい。

2. 行政視察について

川神議長
岡本議員

岡本議員から。

行政視察は議員の務めだという意見も出たが、受け入れ側の態勢もある。県内や中国管内も受け入れがまずできるかをスタートとして、問題がある地域か、ない地域かを判断して、行政視察は前向きにやるべきという判断になった。

柳楽議員

今は急激に感染者が増えているので、視察は今の時期控えるべきという意見になった。どのエリアもやめておいたほうが良い。

川神議長
柳楽議員
澁谷議員

どのエリアもなしか。

今の段階では全国的に自粛しておいたほうがいいかと。

大都市圏で発生しているところはさすがに見合わせたほうが良いが、10月くらいから中国、四国、九州の発生していない地域については良いのではないかという意見である。

三浦議員
芦谷議員

今の状況を考えると当面視察は見送るべきと考える。

緊急事態宣言解除後に緩んでいる。大都市を中心に流行しているので、秋以降にまた判断してはどうかと思う。当面は様子見である。

川神議長

当面というのがどこまでなのか。10月、秋口くらいから検討しても良いのではないかという話にも捉えられる。今は少し見合わせるべきという意見が多い。未来は積極的だが。受け手側のこともあるし、関西、関東、福岡が急激に増えている状況なので、そこへ出かけていく必要性がどの程度あるのかも考えないといけない。

岡本議員は、議員の責務として積極的な行政視察による情報収集ということだが、時期的な問題、現在も含めてもう問題なしで行こうということか。

岡本議員

そういうことではなく、問題があるところは向こうから断ってくるだろう。こちらは良いと思っても向こうが拒むかもしれない。どちらかと言えば相手先の状況を見ながら、行政視察はできればしたほうが良いという考え方である。様子を見ることは必要だろうとは思いますが、はなからやめるのではなくチャンスがあれば行くべきである。

川神議長

9月いっぱいくらいまでは現実問題としてなかなか厳しい。そうなると秋口あたりから検討することはできるが、実施するなら検討になるかなという気がするが、皆はどう思うか。今年度は一切やめてそのお金を別の部分に使う自治体もあるが。ここでやめると決めるわけではないが、行政視察でどのような話をするのか。

佐々木副議長

状況が許せば、大事な議員としての責務なので取り組みたいが、いかんせんこういう状況で、日に日に感染拡大している時期にあり、9月以降に状況が変わればという話をしても、状況が掴めない。感染状況を見ながら時期を今後決める流れでいかないと。あくまでも感染状況を見ながらになる。

川神議長
古森局長
川神議長

7月から中国管内許可だったな。

はい。7月からは中国管内、8月からは全国が許可される。

当面というのは非常に都合の良い言葉である。今の感染状況を見て、当初の予定は一度白紙に戻し、改めて状況を見ながら絶えず議論をする。

- 7月にかかっているものは一度取り消して今から議論をしていくか。
- 澁谷議員 私も特別委員会の委員長なので、視察を提案する責任がある。ある程度2か月前くらいには予定を立てる必要がある。執行部は東京へ行っているアンバランスな状況である。今のところ中国管内は認めようとか、何か提案できることを委員長として探さないといけないので、中途半端だと困る。
- 川神議長 執行部はどうなっているか。
- 古森局長 執行部の出張等は特に制限がないが、首都圏は注意しながら行動するようになっている。
- 澁谷議員 執行部は認められている。
- 三浦議員 視察は行くのと受け入れるのとニコイチで考えるのか。行くのはOKで受け入れないということができるか。
- 川神議長 そのような都合の良いことを議会人がやるわけにはいかない。行くなら受け入れる。
- 古森局長 松江は7月1日から、行くのはやめるが受け入れることになっている。
- 三浦議員 感染リスクを高めないように行くのはやめようという話と、例えば感染者が出ているまちの方が来られるリスクはどちらがどうなのか分からないので、なかなか決められない。こちらから気を付けながら行くなら、気を付けながら来てくれということになる。受け入れもくれぐれも気を付けてきてくれと言うのか。
- 川神議長 例えば首都圏の受け入れの際、制度的に、感染を防げるか分からないものがある。それを市民が見て不安に思い「大丈夫なのか」と言われても、なかなか返答はできない。どこを受け入れて、どこを受け入れないというのも難しい。そうするとオールオアナッシング。また、受け入れないのに行くということも理屈的にできない。
- なので、いつを目安にどういう判断のもとに、行くことと受け入れることはセットで考える。
- 岡本議員 判断に困るのだろうと思う。9月までは議会もあるので、これまでは差し控え、その終わり間際に再度検討して、中国管内を認めるとか決めたらどうか。方向だけ示しておけば良い。執行部は執行部、議会は議会。9月まではとても行政視察に行っている暇がないから、我々は動かない。ただ、行く姿勢もあるから受け入れもするという形でやったらどうか。要は期限を切ったらどうかという話である。
- 川神議長 冒頭にそういう話もした。
- 岡本議員 いろいろ話をされるから、9月なら9月、定例会議が終わるまでとか、議長が言われれば皆それに合わせる。
- 川神議長 いずれにせよ今日提案しなければいけないのは、7月から中国管内に出ても良いという申合せは白紙にすべきだと。いつどうするかについては、少なからず9月議会までは難しいので、終わった時点で再度この話を議題に上げて皆と議論するのか、どうするか。9月末まではやめて、それ以降は改めてここで決めるか議会運営委員会かはわからないが、話をしようという方向に持っていくか、皆が了承するならその方向でいく。
- 古森局長 問題はないが、各委員会の数か月先の予定の算段についても、主に10月からしか動けないということか。

岡本議員
川神議長

受入れ先も、今から「何月頃に行くがどうか」と予定をうかがえば。水面下の準備を、今からやっていくのか、解禁になってからやるのか。10月に入ってから動くとなると、それ以降にしか決まらない。

岡本議員

10月から準備となると年末頃になるからそれも難しい。私が言ったのは、受入れをするということは基本的に受け入れ体制ではあるが、浜田市議会としてはこの時期までは行政視察はやめよう、これは個人の視察も会派の視察も止めるということ。9月定例会議が終わるまで。

川神議長
岡本議員
古森局長

個人をどうするか。

私は一緒に考えていたのだが。

現時点は、政務活動費を使って個人で行かれるのは個人の判断にお任せしている。

三浦議員
下間次長
澁谷議員

今、浜田市議会に対して視察の希望はあるか。

ない。

全部中止というのもどうか。今度の議長会の議員研修会もその理屈なら行けない。

岡本議員

飛躍しすぎでは。視察は第一、お願いしても向こうが受け入れてくれないだろう。とりあえずお伺いしておくという形での受け入れになるのだろう。

川神議長

いずれにせよ、議会全体とすると9月定例会議までは一応は視察をしないということできたいと思う。ただ先ほど言ったように、それ以降の準備はどうかについては別問題なので、そのあたりは皆と会議を開かないといけない。また具体的な話ができればと思うが、今日の時点では、中国管内も控えていただきたい。今後に関しては議員と話しながら、有効にできる環境にはしたい。その程度しか今は言えない。一応、7月から中国管内と言っていたのは取り消しとさせていただきたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

3. その他

川神議長
古森局長

事務局長から説明をお願いします。

前回、PCR検査の自己負担額の話があった。久保課長が保健師経由で調べてくれた。保健所の検査は自己負担なし。それ以外に、キットを持っている医療機関での自由診療もあるが、どこでできるかは把握していない。額はバラバラの状況である。4万円のところもある。

柳楽議員

自己負担額ということで1万から2万程度とあるのは、保険適用はないということか。

古森局長

検査を受けたい、というのは保険適用なし。症状があつて医師の判断で検査するなら保険適用となる。

川神議長

何種類も検査がある。かかっているかどうかを調べる方法もある。抗原検査ならもっと安いということもある。

以上で会議を終了する。

[09 時 51 分 閉議]